

報道関係者 各位

令和 6 年 6 月 28 日

【照会先】

新潟労働局労働基準部健康安全課

課 長 村井 千晴

産業安全専門官 鈴木 政昭

TEL : 025-288-3505

新潟県内における令和 5 年の労働災害発生状況を公表します

～ 死傷者数が増加に転じる～

新潟労働局（局長 千葉茂雄）では、新潟県内における令和 5 年の労働災害の発生状況をとりまとめましたので公表します。

令和 5 年 1 月から 12 月までの新型コロナウイルス感染症のり患を除いた労働者による死亡者数（以下「死亡者数」という。）は 14 人で前年より 3 人減少しましたが、休業 4 日以上の死傷者数（以下「死傷者数」という。）は 2,750 人で前年より 120 人増加しました。

労働災害を減少させるために重点的に取り組む事項を定めた中期計画である「第 14 次労働災害防止推進計画」（以下「14 次防」という。）（令和 5 年度～令和 9 年度）では、令和 9 年までに令和 4 年に比べて「建設業において死亡災害を 15% 以上」、「製造業における機械によるはさまれ・巻き込まれの死傷者数を 5% 以上、陸上貨物運送事業の死傷者数を 5% 以上」減少させること等を目標にしています。

計画の 2 年目となる令和 6 年度は、目標の達成に向け、労働者の作業行動に起因する労働災害対策、高年齢労働者、多様な働き方への対応や外国人労働者等の労働災害防止対策、道路貨物運送事業・建設業・製造業への対策、労働者の健康確保対策、化学物質等による健康障害防止対策などに取り組んでいきます。

また、全国安全週間（7 月 1 日～ 7 日）とその準備期間（6 月 1 日～ 30 日）では、事業場、関係業界団体等に対して、積極的な労働災害防止活動の実施を働きかけます。

（概要は次ページに掲載）

全国の発生状況はコチラ
（厚生労働省 HP）



【令和5年の労働災害発生状況の概要】

1 死亡者数 2

○死亡者数は14人と平成29年以来15人を下回った。

○業種別では、

建設業 6人(前年比2人増)

製造業 3人(前年比5人減)

となった。

○事故の型別では、

「墜落・転落」が3人

「はさまれ・巻き込まれ」、「交通事故(道路)」、「おぼれ」及び「有害物等の接触」がそれぞれ2人

となった。

○年齢別では、50歳以上の労働者が10人となり、全体の約7割を占めている。

2 死傷者数 3

○死傷者数は2,750人となり、増加に転じている。

○事故の型別では、

「転倒」800人(前年比61人・8.3%増)

「墜落・転落」400人(前年比24人・5.7%減)

「動作の反動・無理な動作」(腰痛等)355人(前年比33人・10.2%増)

「はさまれ・巻き込まれ」351人(前年比15人・4.5%増)

「切れ・こすれ」205人(前年比1人・0.5%増)

「飛来・落下」121人(前年比16人・11.7%減)

「激突」120人(前年比13人・9.8%減)

などとなっている。

○年齢別では、

60歳以上が766人(前年比35人・4.8%増)

50～59歳が760人(前年比49人・6.9%増)

となっており、死傷者全体の約半分を占めている。

○外国人労働者の死傷者数は54人となり、前年に比べ20人、58.8%増加した。

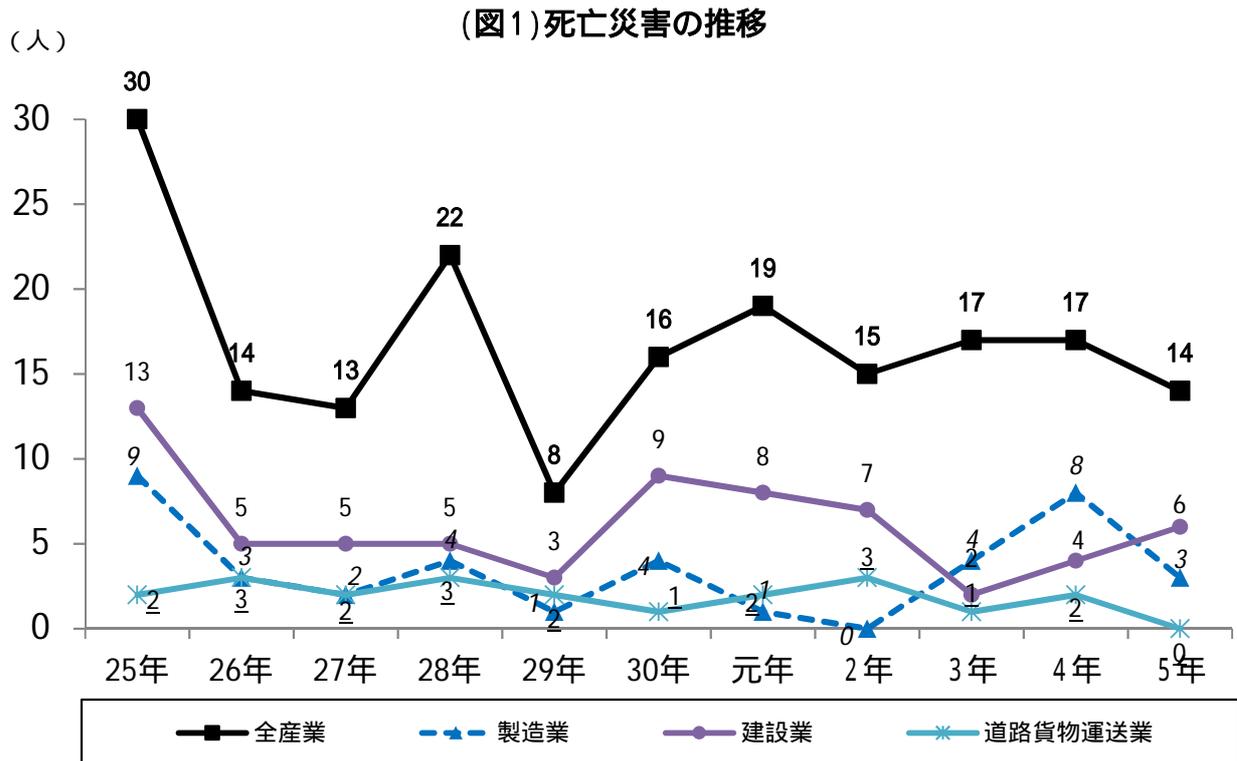
- 1 死亡者数及び死傷者数は、いずれも新型コロナウイルス感染症のり患者を除いたもの。
- 2 死亡災害報告をもとに、死亡者数を集計
- 3 事業者から提出される労働者死傷病報告をもとに、休業4日以上の死傷者数を集計。
なお、これらの件数に通勤中に発生した災害の件数は含まない。

【別添】 令和5年 労働災害発生状況

令和5年 労働災害発生状況

1 死亡災害について

(1) 令和5年(令和5年1月から12月まで)の労働災害での死亡者数は14人で、前年と比較して3人減となりました(図1)。



(2) 業種別にみると、建設業が6人(42.9%)と最も多く、次いで、製造業が3人となっています(表1)。

(表1)業種別死亡災害発生状況

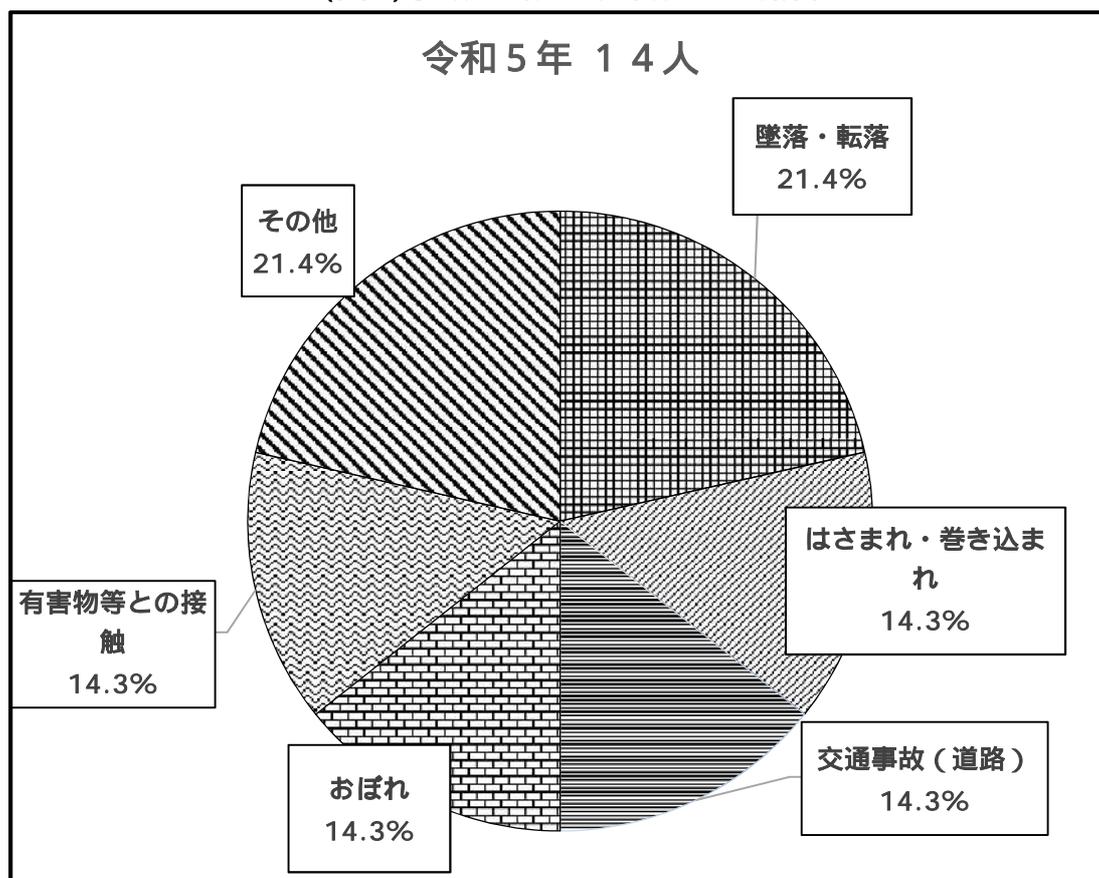
	製造業	建設業	道路貨物運送業	農林業	鉱業	その他の業種	計
令和5年	3	6	0	1	1	3	14
令和4年	8	4	2	1	0	2	17

(3) 事故の型別にみると「墜落・転落」で3人、「はさまれ・巻き込まれ」、「交通事故(道路)」、「おぼれ」及び「有害物等の接触」でそれぞれ2人となっています(表2、図2)。

(表2) 事故型別死亡災害発生状況

事故の型別	令和5年	令和4年	前年比(人)
火災	0	6	- 6
墜落・転落	3	3	± 0
崩壊・倒壊	0	3	- 3
はさまれ・巻き込まれ	2	2	± 0
感電	0	2	- 2
交通事故(道路)	2	0	+ 2
おぼれ	2	0	+ 2
有害物等との接触	2	0	+ 2
その他	3	1	+ 2
合計	14	17	- 3

(図2) 事故型別死亡災害発生の割合

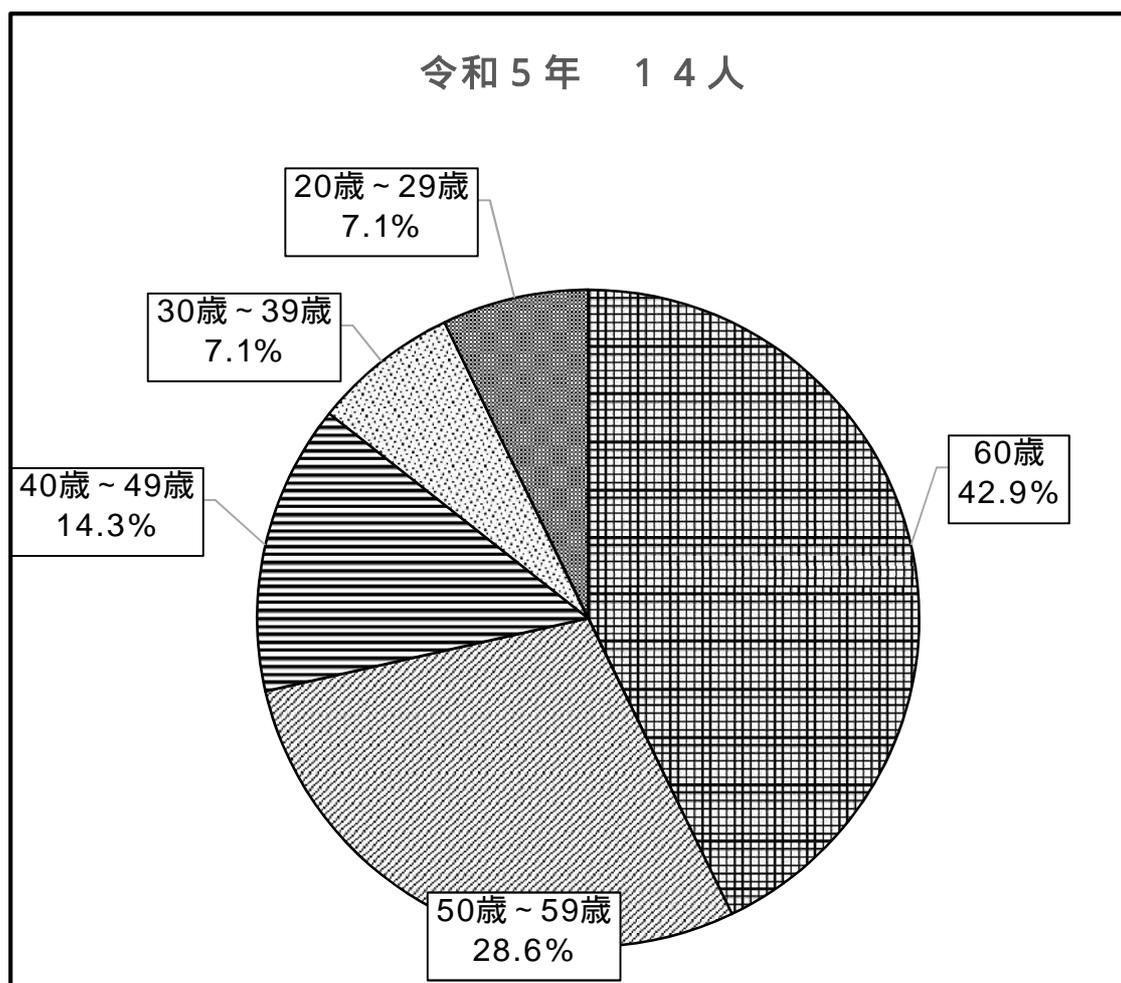


(4) 年齢別にみると、60歳以上が6人、50歳～59歳が4人、40歳～49歳が2人、30歳～39歳及び20歳～29歳がそれぞれ1人となっています(表3、図3)。

(表3)年齢別死亡災害発生状況

年齢別	令和5年	令和4年	前年比(人)
～19歳	0	0	±0
20歳～29歳	1	2	-1
30歳～39歳	1	2	-1
40歳～49歳	2	3	-1
50歳～59歳	4	6	-2
60歳～	6	4	+2
合計	14	17	-3

(図3)年齢別死亡災害発生の割合



令和5年 業種別死亡災害発生状況

○製造業

	発生月	発生状況	事故の型	起因物
1	2月	もろみが入った仕込みタンク（内径192センチメートル、高さ175センチメートル）上部にビニールシートを掛ける作業中、仕込みタンク内に転落し溺死した。 [50歳代・男性]	おぼれ	その他の装置、設備
2	6月	工場敷地内の屋外通路を歩いていたところ、蜂に刺され、アナフィラキシーショックにより死亡した。 [50歳代・男性]	その他	その他の環境等
3	11月	同僚が運転する社有車に同乗し営業先へ向かっていた。見通しの良い信号機のない交差点に差し掛かったところ、一時停止を怠って交差点に進入してきた車と衝突し、その反動で電柱に衝突した。病院で診察を受けたが外傷性大動脈損傷で死亡した。[80歳代・男性]	交通事故（道路）	乗用車、バス、バイク

○建設業

	発生月	発生状況	事故の型	起因物
1	6月	図書館内にあるトイレの詰まりを解消するため、屋外の排水溝からエンジン高圧水洗浄機を使用して作業を行っていたところ、作業員2名が行方不明となり、酸素欠乏危険環境にあった施設内の配管ピットに倒れているところを発見された。[20歳代・男性]、[40歳代・男性]	有害物等との接触	異常環境等
2	6月	化学工業の工場内で、配管を交換するためセイバーソー（電動のこぎり）を用いて配管の切断作業を行っていたところ、切断していた配管が爆発し、配管端のフランジ部で配管を支持していた作業員が死亡した。[50歳代・男性]	爆発	その他の危険物、有害物
3	7月	法面復旧工事において、ドラグ・ショベルの給油を行うために斜面を降りていたところ、当該ドラグ・ショベルが転倒し、運転していたオペレーターの首が運転席の手すりとの間に挟まれて死亡した。[70歳代・男性]	転倒	掘削用機械
4	11月	ダムの浚渫工事で使用した台船の解体作業中、常用洪水吐に流されそうになっていた近接工事の設備（フロート）を船外機船で引き戻す作業を行っていたところ、船外機船とともに常用洪水吐に引き込まれて死亡した。 [50歳代・男性]	おぼれ	その他の乗物
5	12月	木造二階造家屋解体工事において、二階で解体したボード類をフレコンバックに詰め、搬出する準備を行っていた。解体用つかみ機でフレコンバックをつり上げて搬出するため、アタッチメントにつりひもをかけようとしていたところ、つかみ機のオペレーターが運転席から身を乗り出	はさまれ、巻き込まれ	解体用機械

		した際につかみ機が突然旋回し、アームと建物躯体の間に頭部を挟まれた。 [60 歳代・男性]		
--	--	--	--	--

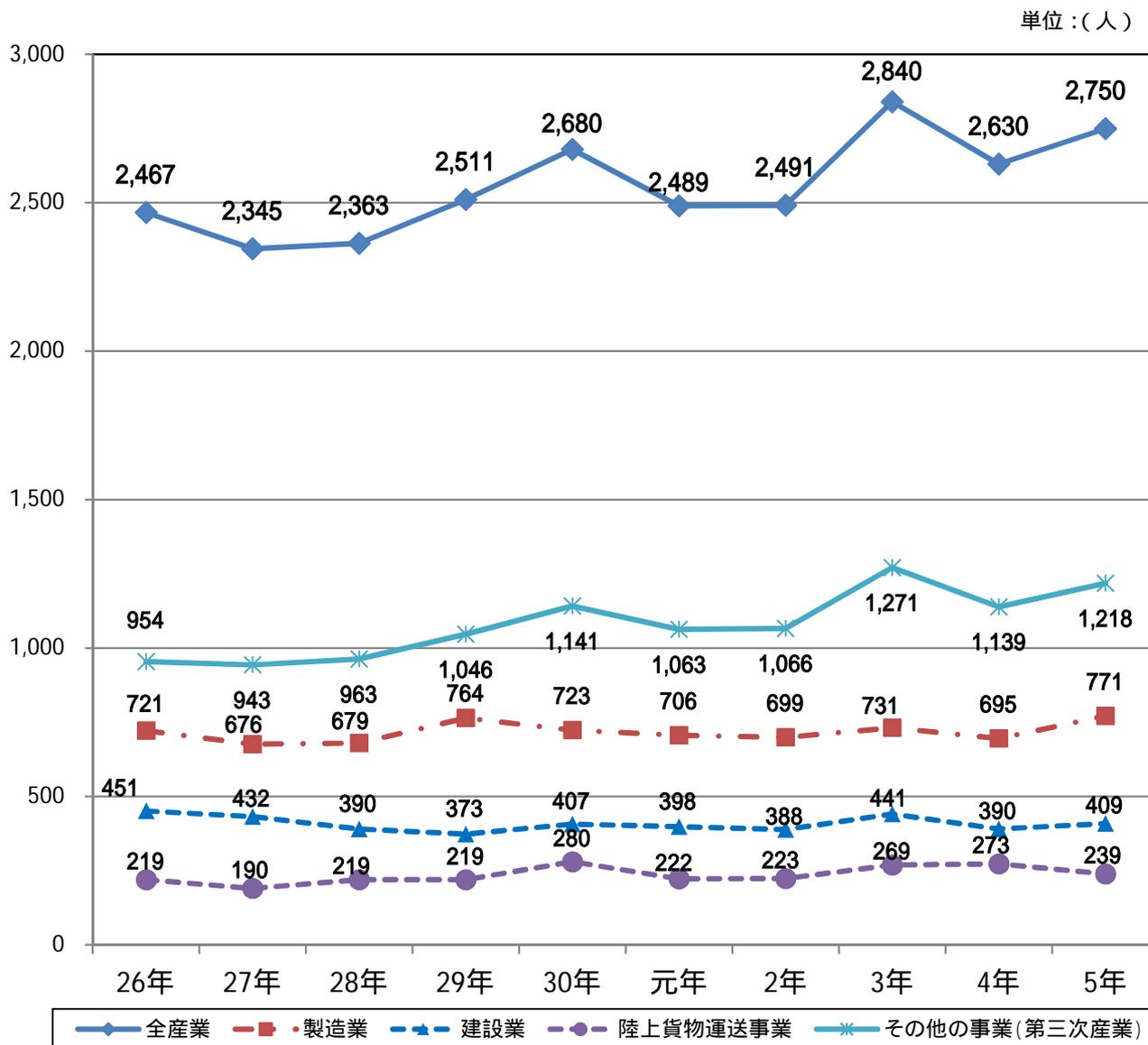
○その他（製造・建設以外）

	発生月	発生状況	事故の型	起因物
1	3月	事業場内の職員用階段において、書類の入ったプラスチック製のボックストレー（重さ約7kg）を2階から1階に運搬していたところ、階段を踏み外して約2メートル下の踊り場へ転落した。[60 歳代・男性]	墜落、転落	階段、棧橋
2	4月	製造プラントに附設された架構上の作業床において、敷地図面作成のための写真撮影を行っていたところ、約16メートル下のアスファルト路面に墜落した。 [40 歳代・男性]	墜落、転落	作業床、歩み板
3	8月	花の苗箱をパレットに自動で積み上げる機械（一般名：パレタイザー）に不具合があり、被災者が機械をのぞき込むように点検していたところ、誤って光線式の起動スイッチに触れてしまい、下降してきたトレークランプと機械フレームの間に頸部がはさまれ、窒息により死亡した。 [30 歳代・男性]	はさまれ、巻き込まれ	その他の一般動力機械
4	10月	水力発電所の導水路から立坑を通じて機材を運び出す作業を行っていたところ、取水ダムの縁から水叩部まで転落して失神状態となった。失神状態のまま転落した箇所にあった水深3メートルの水たまりにずり落ちたため、溺水により死亡した。[70 歳代・男性]	墜落、転落	作業床、歩み板
5	12月	国道脇に車を止め、付近の数軒分の新聞を配達した。車に戻るため道路の反対側から横断していたところ、走行してきた乗用車にはねられ、病院に搬送されたが出血性ショックにより死亡した。現場近くには押しボタン式の信号及び横断歩道はあったが、押しボタン信号を使用せず、横断歩道のない場所を横断していた。[70 歳代・男性]	交通事故（道路）	乗用車、バス、バイク

2 令和5年における休業4日以上之死傷災害発生状況

- (1) 令和5年(令和5年1月から12月まで)の労働災害による休業4日以上之死傷者数は2,750人で、前年と比較して120人(4.6%)の増加となりました(図4)。
- (2) 業種別にみると、その他の事業(第三次産業)が1,218人(44.3%)と最も多くを占め、次いで、製造業が771人(28.0%)、建設業が409人(14.9%)、陸上貨物運送事業が239人(8.7%)となっています(図4)。

(図4) 休業4日以上之死傷災害の推移



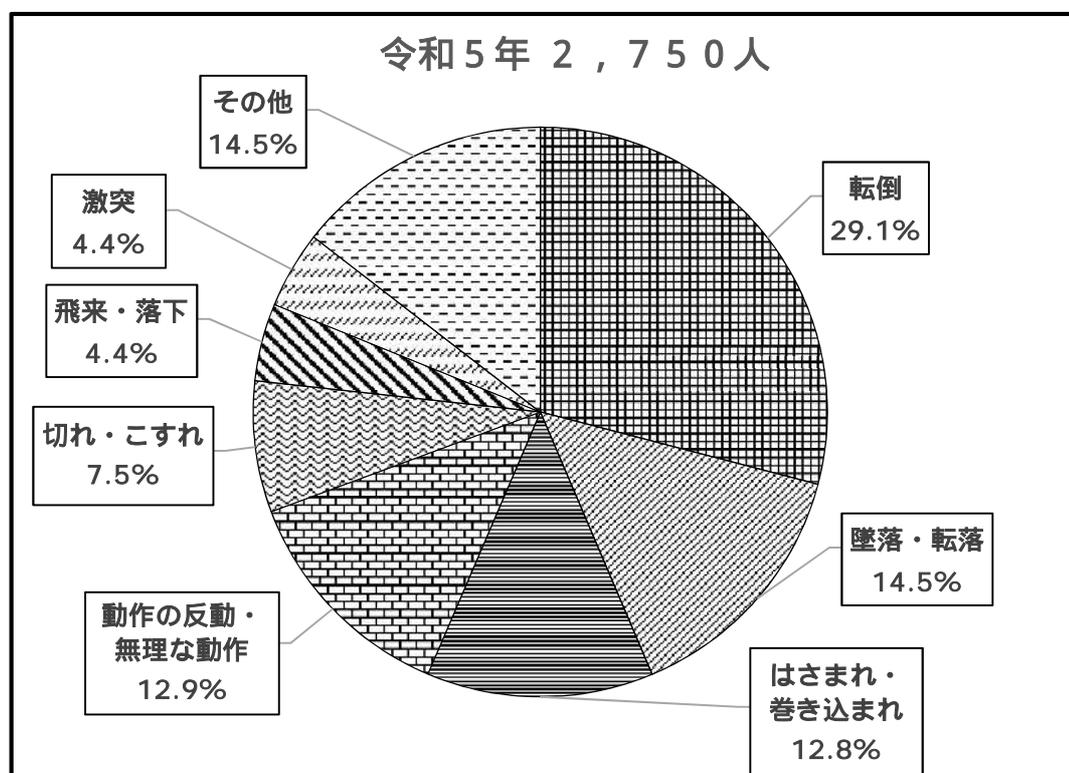
(3) 事故の型別にみると、「転倒」の 800 人が最も多く全体の 29.1%を占めています。次いで「墜落・転落」が 400 人(14.5%)、「動作の反動・無理な動作」が 355 人(12.9%)、「はさまれ・巻き込まれ」が 351 人(12.8%)、となっています(表4、図5)。

(表4) 主な事故型別死傷災害発生状況

	令和5年	令和4年	前年比(人)
全産業	2,750	2,630	+120

事故の型別	令和5年	令和4年	前年比(人)
転倒	800	739	+61
墜落・転落	400	424	-24
動作の反動・無理な動作	355	322	+33
はさまれ・巻き込まれ	351	336	+15
切れ・こすれ	205	204	+1
飛来・落下	121	137	-16
激突	120	133	-13
その他	398	335	+63

(図5) 事故型別死傷災害発生の割合

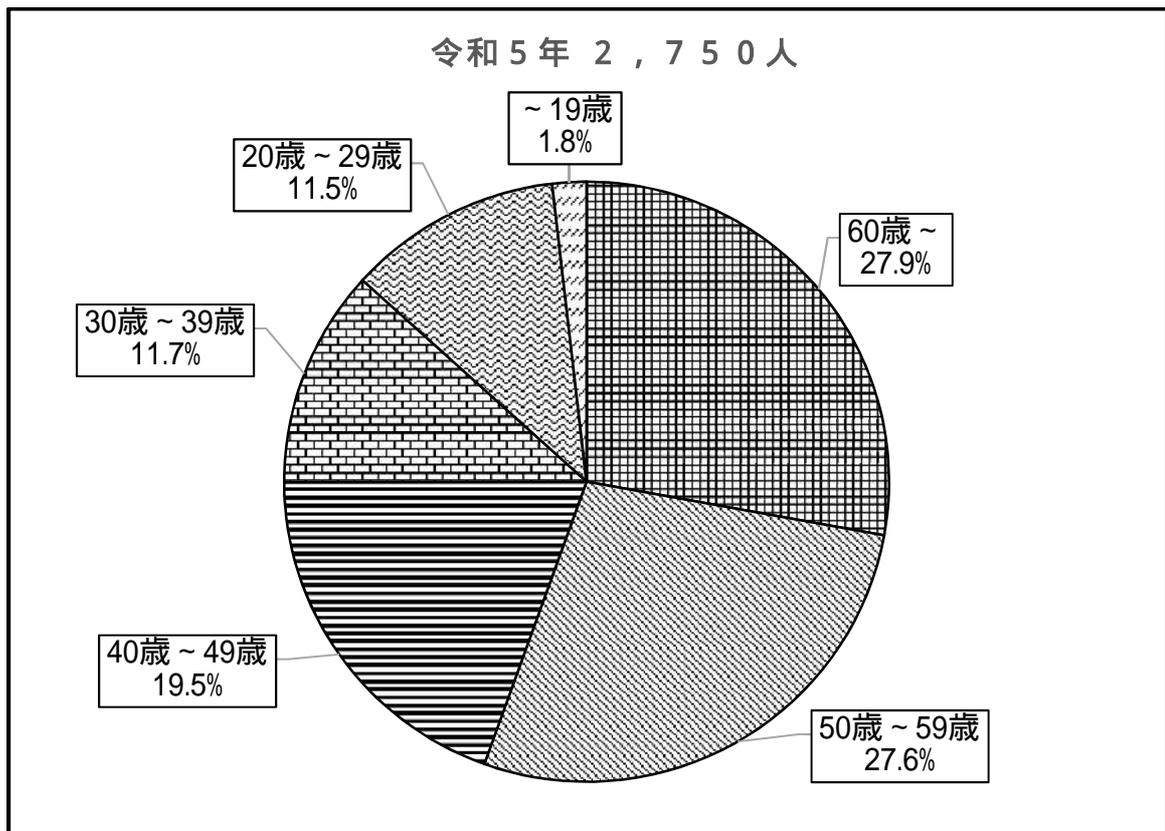


(4) 年齢別にみると、60歳以上が766人と最も多く27.9%を占め、次いで50歳～59歳が760人で27.6%を占めています。(表5、図6)。

(表5) 年齢別死傷災害発生状況

年齢別	令和5年	令和4年	前年比(人)
～19歳	50	35	+15
20歳～29歳	315	259	+66
30歳～39歳	323	356	-33
40歳～49歳	536	538	-2
50歳～59歳	760	711	+49
60歳～	766	731	+35
合計	2,750	2,630	+120

(図6) 年齢別死傷災害発生の割合



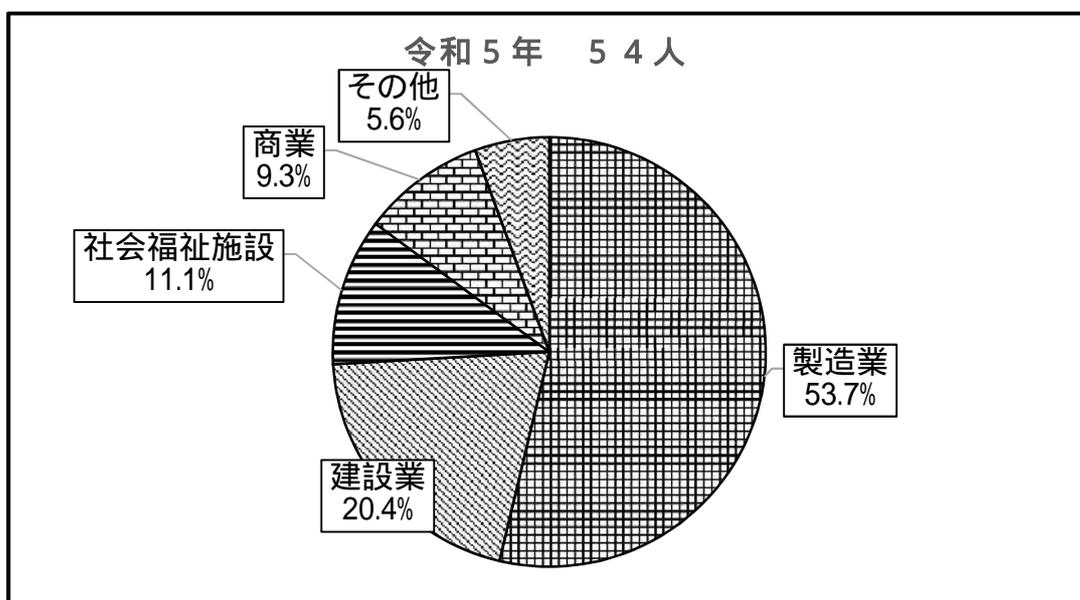
(5) 外国人労働者の休業4日以上の死傷災害発生状況

外国人労働者の死傷者数は54人と前年に比べ20人増加した。

(表6) 外国人労働者の死傷災害発生状況

	令和5年	令和4年	前年比(人)
製造業	29	16	+13
建設業	11	9	+2
社会福祉施設	6	1	+5
商業	5	4	+1
その他	3	4	-1
合計	54	34	+20

(図7) 業種別外国人労働者の死傷災害発生の割合



(表7) 外国人労働者の事故の型別死傷災害発生状況

事故の型別	令和5年	令和4年	前年比(人)
はさまれ・巻き込まれ	11	6	+5
転倒	10	5	+5
飛来・落下	9	2	+7
切れ・こすれ	8	8	±0
動作の反動・無理な動作	4	1	+3
墜落・転落	3	6	-3
その他	9	6	+3
合計	54	34	+20

(図8) 事故の型別外国人労働者の死傷災害発生割合

